

特集

市消防団ポンプ操法競技大会を開催

地域防災の要として 日々、切磋琢磨

消火活動を行うための基本的な機械器具操作の正確さや動作の機敏さを競い合う「第10回市消防団ポンプ操法競技大会」を9月3日、伊奈庁舎駐車場で開催した。この大会には、市内の消防団全11分団が参加し、日頃の訓練の成果を競い合った。

爽

やかに晴れわたる空の下、3年ぶりの開催、第10回の記念大会となった今大会。各分団の選手たちは、これまでの訓練の成果を遺憾なく発揮し、機敏な動き、見事なホースさばきを披露した。

ポンプ操法は、火災などの消火活動を行うための基本的な機械器具操作と動作だ。消防団各分団では大会に向け、数カ月にも及ぶ訓練に励む。

訓練の時間は夜間が中心だ。休日などの早朝に行う場合もある。これは、消防団員が本業を

持ちながら、地域の安全のため、昼夜問わず活動しているからだ。

大会に出場する選手、訓練を

指導する指導員、選手をサポートする分団員が一つの目標に向かって、数カ月にわたり共に活動する。

操法競技大会に向け訓練を重ねる消防団員にとって、大会で優秀な成績を収めることは大きな目標だ。だが、それだけではない。訓練を通して培った技術、鍛えられた精神力、そして団員同士の絆は、つくばみらい市の防災を支える大きな力になる。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という使命感を胸に、日夜努力を続ける彼らこそが、地域防災の要なのだ。

最優秀選手賞の鴻巣辰行さん
(第7分団・板橋地区)



準優勝の第8分団（福岡地区）